

1. 大学での学びにつながる探究活動、自分に取り組んだ研究活動について質疑応答

課題研究及び探究活動は、生徒自身が興味を持ったり、不思議に思ったりしたことを、自分たちで考えた方法で解決していく、主体的で対話的で深い学びを実践する活動です。これらの活動では、生徒の将来の進路を考え実現する活動とつながるところが多くあります。特に、ポスター発表当日は、「論じ合う力」が育成され、鍛えられます。

例えば、

◎校内発表会

… 生徒どうしの質疑応答によって、相互にプレゼンテーション力、コミュニケーション力を鍛え合います。更に、教師との質疑応答によって、「論じ合う力」を育成できます。

◎学会、研究発表会

… 大学・研究機関等の専門家との質疑応答を通して深い学びにつながり、「論じ合う力」を伸長できます。更に、専門家との対話を通して進路意識を高め、進路実現に向けた貴重な体験ができます。

どれも、進路指導に関連が深い取組になります。また、探究活動の過程で、自分の進路実現に向けた意識の向上も見られ、探究と進路の学びを双方向で深く関連づけ高め合うことになります。

2. ポスター発表の場面における質問事例 生徒と教師のQ & A

Q:生徒からの質問例	A:教師からの回答例
①発表原稿を見ながら発表したらいいいませんか。	・発表会場では、原稿を見ながら発表する様子をいくらか見かけます。でも、自分のためを考えると、原稿を見ないプレゼンテーション力が必要になります。(自分の研究だから見ないでも大丈夫)
②指し棒は、ずっと指していないといけませんか。	・項目が変わるときの目線の誘導や見て欲しい図や表、グラフに目線を誘導したいときに指し棒を使えばよいと思います。
③数人で手分けをして発表してもよいですか。	・自分の学びとしては、1人で発表できることが前提で、左右半分ずつを2人で手分けをして発表してもよいと思います。・各人の発表機会を確保するためです。・多くの発表者が次々と交代して発表するのは、避けた方がよいと思います。
④実物を持っていったらいいませんか。	・基本的には、主催者側の指示に従ってください。・コロナ禍では、明確に禁止されたこともあります。・逆に、ポスターの前に机(実物を展示用)を用意してくれている場合もあります。
⑤手持ち資料を用意したらいいませんか。	・主催者側の指示に従ってください。・手持ち資料を許可されているときも、禁止されているときもありました。・ただし、基本的には、指定されたポスター用紙サイズにまとめる力も大切です。
⑥質問が出なかったときは、どうしたらよいですか。(発表後、沈黙が続いたとき)	・お互いに沈黙が続くと、困りますし余計に質問が出なくなります。・発表者から、手を指して「質問はありませんか。」と問いかけてみましょう。質問が返ってくるまで、できるだけ手を下ろさない。
⑦練習で発表時間が長くなったらいいいませんか。(発表時間が指定されている場合)	・基本的に、指定されて時間内にまとめることも学びです。・時間指定がなくても、5～8分程度にまとめましょう。・聴き手は、多くの発表を聴きたがっています。
⑧審査は、どのように行われますか。	・審査がある発表会では、事前に評価の観点が表示されており、それに従って審査員の先生方が、審査に回られます。・審査の順番が決まっているときもあれば、自由に審査に回ってこられることもあります。

お願い

本成果物をご覧いただき、お気づきの点をご指導いただくと幸いです。また、ご活用いただいた場合は、その対象や実践内容、ご活用してお気づきの点などをご指導いただくと幸いです。今後の成果物の作成に生かしていきたいと考えています。お手数をおかけいたしますが、下記2次元コードから、本校SSHのホームページにアクセスした後、アンケートフォームにてご回答よろしくお願いたします。



令和5年度 発行

発行者 岡山県立玉島高等学校 SSH推進室

〒713-8121 岡山県倉敷市玉島阿賀崎3-1-1 TEL086-522-2972 FAX086-522-4077

ポスター発表の仕方

発展編

研究の楽しさを伝えよう！

明るく！元気に！ハキハキと！

質疑応答が深い学び！



岡山県立玉島高等学校



課題研究・探究活動の成果発信 ～ポスター発表の指導で大切にしていること～

発表者の「伝える姿勢」は勿論、聴き手の「聴く姿勢」も大切である。

(1) ポスター発表の特徴 ～特徴を知ること、次に生きる発表をしよう～

	ポスター発表	オンライン発表	口頭（ステージ）発表
発表会場	1つの会場で、同時に多数の発表を行う。聴き手との距離が近い。隣の発表者の声が近い。	遠く離れた場所にいながらウェブ上の1つの会場で発表を行う。聴き手の距離が遠いようである。	1つの会場で、1つの発表を行う。聴き手との距離が遠い。
発表者	発表者と聴き手が双方向の対話（発表、質疑応答、意見交換）を行う。	聴き手の顔が見えない状態で発表を行うので、会場の様子を伺うことができない。	発表者からの一方向の発表をした後、質疑応答を行う。
聴き手	会場内を自由に移動して、立ったまま聴く。	会場間の移動は簡単、異なる会場の発表を聴きやすい。	会場間を移動して、着席して聴く。
メリット	聴き手に応じて、発表内容を修正して対応できる。	地理的な制限がなく、発表機会が豊富となる。	一度に多数の聴き手に伝えることができる。

- ポスター発表のねらいとしては、①研究成果を発表する場②今後の研究に繋がる場に分けられる。聴き手とその場で議論ができるので、貴重なアドバイスを得られる。
- ポスター発表の会場は、他の研究者・参加者との交流を深めるよい機会となる。
- オンライン発表では、ポスターやスライドのデジタルデータを画面共有し発表する。指し棒の代わりにプレゼンテーションマウスを使うと聴き手にも見える。

(2) ポスター発表における発表者の視点 ～入念な準備と積極的なアプローチ～

- 1年間の研究成果をポスター発表する前に、研究過程（研究ストーリー）を振り返り、過去の研究内容を思い出し新鮮な記憶にする。質疑応答の対策になる。
- 発表で伝えたいことを明確にした発表ストーリーをまとめる。特に伝えたいことを強調することで、ポスターの内容をなぞるだけの単調な発表でなくなる。

（研究ストーリー）≠（発表ストーリー）

- 発表者は内容を知っているため、「わかり難いところ」に気付きにくくなりがちである。発表者は「聴いてもらう」という姿勢で発表するとよい。

(3) ポスター発表における発表者の態度 ～いつでも発表できる準備～

- 発表者はポスターの方を向くのではなく、前を通りかかる人の方に体を向けて聴き手を呼び込み、いつでもお迎えできる体勢をとる。
- 少しでも足を止め興味を示した人が通りかかったら、「聴き手が説明を求める」のを待たず、発表者から「説明しましょうか」と積極的に声をかけましょう。発表を聴いている人が一人でもいると、他の人が足を止める大きな魅力となります。
- 発表中に知り合いの聞き手が来ても、私語は駄目である。

(4) ポスター発表における聴き手の視点 ～発表会は発表者と聴き手の協働～

- 聴き手は、発表をしっかりと聴き質問をしよう。質問することは、発表に対するお礼であり、興味深い発表であったことを伝えることでもある。
- 発表会は、発表者だけで作るのではなく、発表者と聴き手が協働で作るものである。聴き手の上手な聴きっぷりが発表者のモチベーションを高める。
- 質疑応答は、発表者だけでなく聴き手の深い学びとなり、「論じ合う力」を育てることに繋がる。

(5) ポスター発表の発表ポイント ～聴き手を意識して発表しよう～

- 発表者と聴き手の距離が近いので、聴き手の視線が発表者に多く注がれる。そんなとき、ポスターばかりを見て発表をしていたら印象が良くない。聴き手の方を見て話すことを心がけるだけで、発表の雰囲気がとても良くなる。
- 目の前に聴き手がいるのに、原稿に目を落としたまま読むのではなく、語りかけて、伝えるために発表する。

発表の最初と最後に、あいさつをする。



聴き手の方に視線を向けて発表。アイコンタクト

発表者は、身振りを加えて発表。ジェスチャー

聴き手の反応を見ながら対応。



オンライン発表の発表ポイント ～見えない聴き手を意識して発表しよう～



ポスター発表の仕方

□発表者は自分たちの探究（研究）してきた成果を、聴き手に伝えることを意識してほしい。

(1) 発表ポスターができてから、発表するまでに取り組んでほしいこと

(発表ポスターの内容をチェック)

- 記載内容は、正しいのか確認してほしい。
- 勘違いして書いていることはないか、再度確認してほしい。
- 引用した内容は、正しいのか。
- 調査分析に用いた資料は、正確なのか。信頼性を確認してほしい。
- 何かを非難する内容になっていないか確認してほしい。

発表練習は、
声に出して繰り返し!

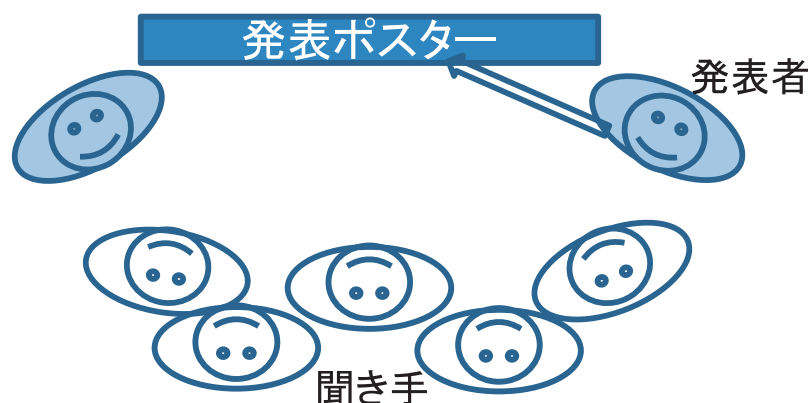
明るく!
元気に!
ハキハキと!

(ポスター発表の練習のとき)

- 発表ポスターができたなら、探究(研究)を始めたときからの活動を振り返ってほしい。
自分たちの探究(研究)してきたストーリーをマッピングして確認する。
- 発表したい内容を、文字にして書いてほしい。
原稿を作るためだけでなく、自分たちの考えを整理してまとめてほしい。
- ポスター発表会に向けて、自分たちの目標を決めてほしい。
それを達成するために何が必要か考えてほしい。

(2) 発表者:ポスター発表するとき、気を付けてほしいこと

- 発表する前に、聴き手に向かって整列して挨拶する。
研究内容、発表者の名前を伝えてほしい。
- 自分たちが一方的に話すのではなく、聴き手に伝えることを意識してほしい。
発表ポスターに向かって発表するのではなく、聴き手に向かって発表する。



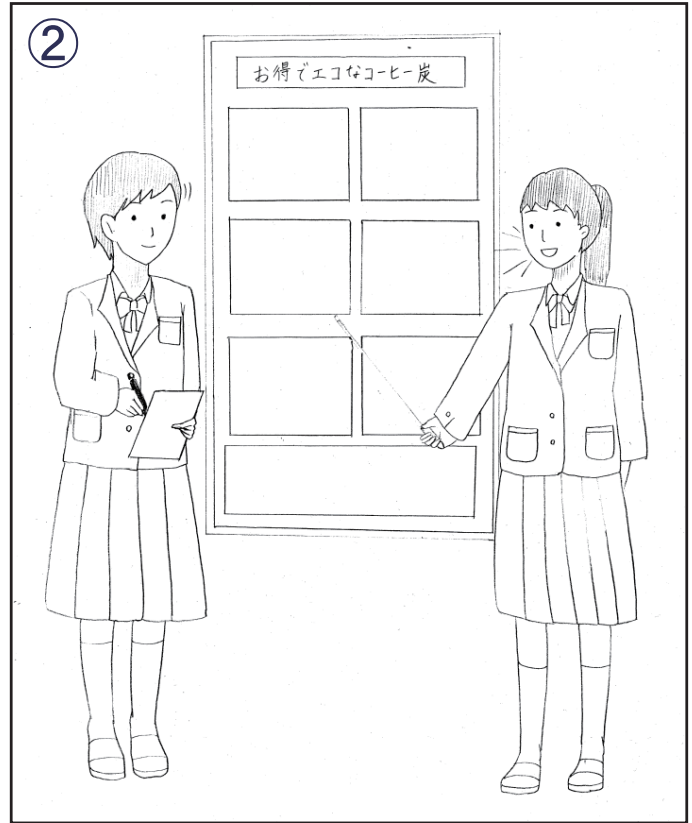
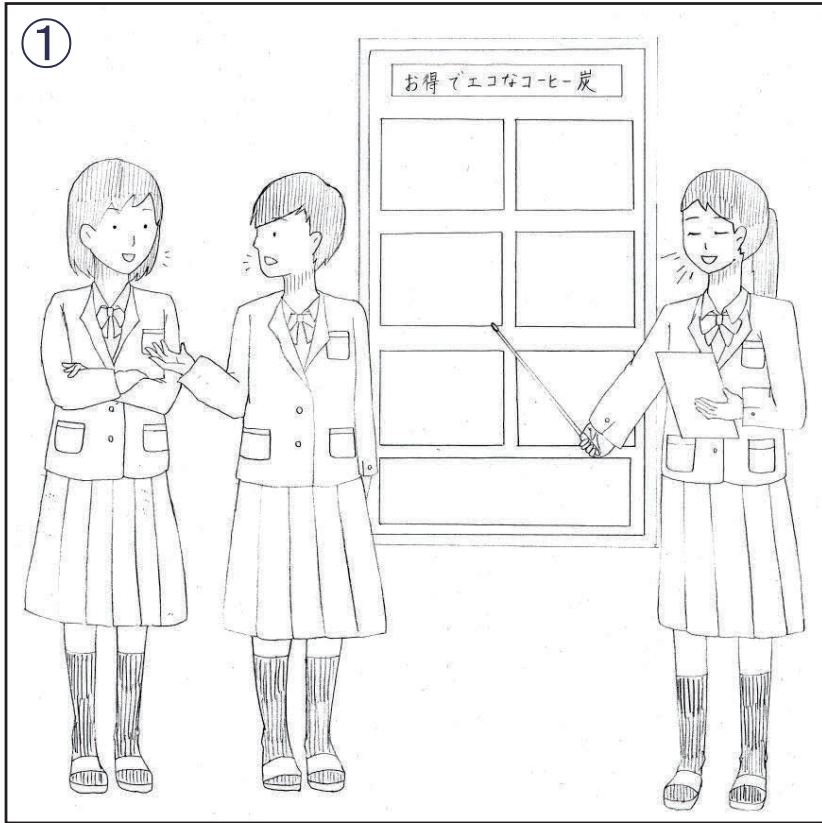
- 原稿を見ないで、自分たちの探究(研究)してきたことに自信を持って、大きな声で発表してほしい。
- 発表ポスターの見てほしいところを指さしてほしい。
- 発表中は、自分が発表していなくても聴き手の方を向いてほしい。
自分も発表している意識のままでいてほしい。
- 発表が終わったら、聴き手に向かって整列して挨拶する。
- 「何か質問はありませんか。」と発表者から聞いてあげてほしい。

(3) 聴き手:ポスター発表を聞くとき、気を付けてほしいこと

- 聞かせてもらう態度になってほしい。(できるだけ立って聴いてほしい)
- 質問ができるようになってほしい。でも発表者を困らせることが目的ではない。

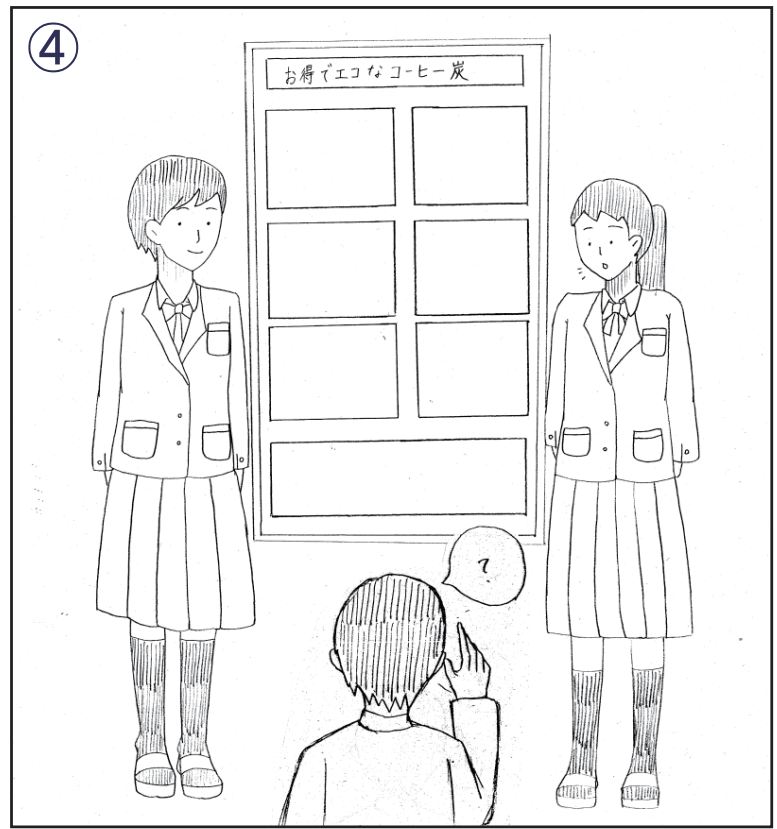
Q. もっとよくするために、どこを、どうしたらよいですか。

聞き手を意識した伝える発表にするために！



発表してない時も発表者

聞き手か、発表者か



待ってる間も発表者

聞き手を意識しているか